



SUZUKA Sound of ENGINE 2019

キング・ケニー、ローソン、レイニー、拓磨と4人のグランプリレジェンドライダーたちがデモンに参加

11月16日、17日に鈴鹿サーキットで開催された「鈴鹿サウンド・オブ・エンジン2019」で、ウェイン・レイニーが再びバイクにまたがり鈴鹿サーキットを走った。

アメリカ人ライダーのレイニーは世界GP500ccクラスで1990年から1992年まで3年連続でチャンピオンを獲得。ところが4連覇を目前にした1993年のサンマリノGPで転倒した際に下半身不随の重傷を負い、現役引退を余儀なくされた。現役引退後はチームオーナーとして世界GPを転戦。現在でもモトアメリカシリーズの運営にたずさわ

っている。

今回、レイニーが再びバイクで走ることになったのは青木拓磨の存在。拓磨は今年の鈴鹿8耐、日本GPで上半身と両手を使って走ることのできるバイクでデモンを行なっており、同じシステムを使ったバイクで、鈴鹿でのレイニーのデモンが実現した。

レイニーは現役当時をほうふつとさせるマルボロカラーのYZF-R1を駆って、ケニー・ロバーツ、エディ・ローソン、青木拓磨と共に26年ぶりに鈴鹿を走行。駆けつけた大勢のファンから、大きな拍手を送られた。



マルボロカラーのマシン、レーシングスーツで走るレイニー。ライバルでもあるローソンがロスマンズカラーのマシンで続く



拓磨は日本GPに続いて、レプソルカラーのRC213V-Sを走らせた

写真/鈴鹿サーキット 文/RIDINGSPO R M V

鈴鹿サウンドオブエンジンで ウェイン・レイニーが再び 鈴鹿サーキットを走った



「ドリーム・セッション」として、高校生までの子供を対象に開催された午後の部。レーサー姿の3人と握手会も実施された

レッドブルエアレースの世界王者、室屋義秀、元F1ドライバーで、2017年インディ500で優勝している佐藤琢磨、そして2輪界からMotoGPライダーの中上貴晶の3人が12月8日、都内でトークイベントに参加した。

スイスの高級時計「ブライトリング」が立ち上げたチーム「ジャパン・レーサーズ・スクワッド」のメンバーである3



ブライトリングの時計を見せてポーズを決めた中上。[二人に肩を並べるように来季は優勝したい]

人。当日は、午前と午後で趣向が変わる2部構成。午前には高校生以上の観客を迎えて、3人ともシックな衣装で19年シーズンを振り返った。一方、午後の部では、3人の戦闘服であるレーシングスーツに身を包み、小学生から高校生までに夢の大切さや、その実現方法を語った。

46歳の室屋、42歳の佐藤。最年少27歳の中上は経験豊富な二人から、チームのまとめ方のアドバイスを受けるなど、真剣な話も。室屋からは「たかちゃん」と呼ばれ、和気あいあいの時間となった。



午前の部は「レーサーズ・セッション」として開催され、大人の雰囲気あふれる衣装で19年シーズンを報告した

写真/岸田克法 文/RIDINGSPO R M V

室屋義秀と佐藤琢磨と共に ファンと触れ合った中上貴晶

写真で見る今月のニュース

Roadracing Monthly View

